



TITLE:

[資料]案内チラシ・平成25年4月6日
付け 読売新聞記事(大阪本社発行)

AUTHOR(S):

CITATION:

[資料]案内チラシ・平成25年4月6日付け 読売新聞記事(大阪本社発行). 京都大学附置研究所・センターシンポジウム: 京都からの提言-21世紀の日本を考える (第8回) 「科学が見いだす日本の進路」 2014, 8: 114-115

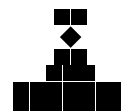
ISSUE DATE:

2014-03-14

URL:

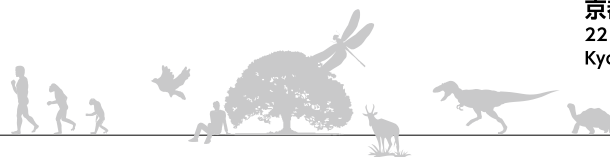
<http://hdl.handle.net/2433/187730>

RIGHT:



新たな知の
地平を拓く

京都大学 附置研究所・センター
22 Research Institutes and Centers
Kyoto University



資 料

案内チラシ

平成 25 年 4 月 6 日付け
読売新聞記事（大阪本社発行）





新たな知の
地平を拓く

京都大学 附置研究所・センター
22 Research Institutes and Centers
Kyoto University



21世紀の日本を考える(第8回)

京都からの提言

京都大学附置研究所・センターシンポジウム

日時 平成25年3月16日土
10:00~17:15

場所 北海道立道民活動センター
「かでの2・7」かでのホール
(札幌市中央区北2条西7丁目)
○交通アクセス/JR札幌駅:徒歩12分
地下鉄さっぽろ駅:徒歩7分

○定員:500名
○主催:京都大学附置研究所・センター
○後援:読売新聞社、北海道大学

「科学が見いだす日本の進路」

○プログラム

- 10:00~10:15 [開会の辞]
松本 紘 (京都大学総長)
- 10:15~10:30 [歓迎挨拶]
佐伯 浩 (北海道大学総長)
- 10:30~11:15 「宇宙のはじまり」
田中 貴浩 (基礎物理学研究所教授)
- 11:15~12:00 「過去から学ぶヒトの未来:
環境変動と霊長類の進化」
高井 正成 (霊長類研究所教授)
- 12:00~13:30 休憩
- 13:30~14:15 「科学を学ぶことの重要性」
2010年ノーベル化学賞受賞
鈴木 章 (北海道大学名誉教授)
- 14:15~14:20 休憩
- 14:20~15:05 「大人の脳で新たに生まれる神経細胞と
その不思議な役割」
影山龍一郎 (ウイルス研究所教授)
- 15:05~15:50 「がん細胞を狙い撃ち—中性子捕捉療法」
小野 公二 (原子炉実験所粒子線腫瘍学研究センター長・教授)
- 15:50~16:00 休憩
- 16:00~17:10 [パネルディスカッション]
「科学が見いだす日本の進路」
コーディネーター:九後 太一 (基礎物理学研究所長)
ゲストパネリスト:津田 一郎 (北海道大学数学連携研究センター長・電子科学研究所教授)
常松 健一 (読売新聞大阪本社編集局科学部長)
パネリスト:田中貴浩、高井正成、影山龍一郎、小野公二
- 17:10~17:15 [閉会の辞]
森 重文 (数理解析研究所長)

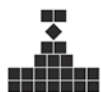
○定員500名(入場無料)応募申込みは先着順となります。
(なお当日の入場は、座席に余裕のある場合は、お認め致します。)
(満席になり次第お断りしますので予めご了承ください。)

お問い合わせ先

〒606-8502
京都市左京区北白川追分町 京都大学基礎物理学研究所総務掛
E-mail:soumu@yukawa.kyoto-u.ac.jp
TEL:075-753-7003 FAX:075-753-7020

当日のお問い合わせ先
(北海道立道民活動センター「かでの2・7」かでのホール TEL.011-204-5100)
*参加者の情報は、適切に保護し、本シンポジウムの開催・受付の目的
以外には利用いたしません。
*やむを得ない事情によりプログラムが変更になる場合があります。

参加お申込み方法は裏面へ
<http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/kuicsympo/>



新たな知の
地平を拓く

京都大学 附置研究所・センター
22 Research Institutes and Centers
Kyoto University

講演者紹介

「宇宙のはじまり」

宇宙のはじまりがどうなっていたのか？という疑問に対して宇宙を研究している研究者が、どこまで現状で答えることができるのか、という挑戦です。宇宙論研究の歴史を概観し、宇宙の歴史がこれまでどのように解き明かされてきたかを解説したいと思います。さらに、短い限られた時間に詰め込むのは難しいかもしれませんが、インフレーション宇宙という宇宙初期に起こったとされる現象が最新の観測事実から、解明されつつある現状をお伝えできればと考えています。それでは、インフレーションのその前は？



田中 貴浩
基礎物理学研究所 教授

「過去から学ぶヒトの未来： 環境変動と霊長類の進化」

我々ヒトが属する霊長類の起源は、巨大な恐竜が繁栄していた約8500万年前にまで遡ります。約6500万年前に恐竜が絶滅する原因となった大規模な環境変動がありましたが、初期の霊長類はその危機を乗り越えて進化していきました。その後も地球規模の寒冷化や乾燥化などの危機を乗り越えながら、我々ヒトが出現し現在に至っています。我々の祖先が過去の環境変動をどのように乗り越えてきたのかを学び、これからの未来を考えてみましょう。



高井 正成
霊長類研究所 教授

「科学を学ぶことの重要性」

我が国のように資源の乏しい国が、これからの将来を生き抜いて行くためには、どのようにしたら良いのであろうか。私の考えでは、よその国では容易に作られないような付加価値の高い製品を製造し、多くの国の人々に喜んで使用して戴くことではなかろうか。そのためには、高い科学知識から作られる技術が必要であることは言うまでもない。そのために高度な科学を学ぶことが重要になる。



鈴木 章
2010年ノーベル化学賞受賞
北海道大学名誉教授

「大人の脳で新たに生まれる神経細胞とその不思議な役割」

脳にある神経細胞（ニューロン）は胎児期にのみ産生され、子供や大人になってから一度失われると二度と再生しないと考えられてきました。ところが、ヒトを含めた哺乳動物の脳の海馬・歯状回や側脳室周囲領域では、成体になっても新たなニューロンが生まれ続けること（成体脳ニューロン新生）が明らかになってきました。このニューロンは記憶、学習、匂い情報の処理に重要な役割を担います。大人になってから生まれるニューロンの不思議な役割について紹介します。



影山 龍一郎
ウイルス研究所 教授

「がん細胞を狙い撃ち—中性子捕捉療法」

中性子を捕捉したホウ素原子核は、飛ぶ距離が細胞の直径を超えない程に短い二つの粒子に直ちに分裂する。従って、がん細胞にホウ素を集積させ、中性子を照射するとがん細胞のみ破壊できる。治療研究は研究用原子炉を用いて悪性脳腫瘍、悪性黒色腫や再発頭頸部がんを対象に行われ、有効性が確認されつつある。大学が牽引し、産官の協力体制が巧く確立した日本が世界の研究を牽引しており、世界初の加速器中性子照射装置も京大で完成し、稼働している。



小野 公二
原子炉実験所
粒子線腫瘍学研究
センター長・教授

京都大学 附置研究所・センター

- | | | |
|---------------|---------------|-------------------|
| ■ 化学研究所 | ■ 経済研究所 | ■ 地域研究統合情報センター |
| ■ 人文科学研究所 | ■ 数理解析研究所 | ■ 学術情報メディアセンター |
| ■ 再生医科学研究所 | ■ 原子炉実験所 | ■ フィールド科学教育研究センター |
| ■ エネルギー理工学研究所 | ■ 霊長類研究所 | ■ こころの未来研究センター |
| ■ 生存圏研究所 | ■ 東南アジア研究所 | ■ 野生動物研究センター |
| ■ 防災研究所 | ■ IPS細胞研究所 | ■ 物質—細胞統合システム拠点 |
| ■ 基礎物理学研究所 | ■ 放射線生物研究センター | |
| ■ ウイルス研究所 | ■ 生態学研究センター | |

京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの提言

21世紀の日本を考える(第8回)

パネルディスカッション

「科学が見いだす日本の進路」



ゲストパネリスト
津田 一郎
北海道大学
数学連携研究センター長
電子科学研究所教授



ゲストパネリスト
常松 健一
読売新聞大阪本社
編集局科学部長



コーディネーター
九後 太一
基礎物理学研究所長

お申し込み方法

○ウェブでの申込み

- 参加申し込みフォームからお申込ください。
- ホームページアドレス <http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/kuicsympo/>

○FAXでの申込み

- 冒頭に「京都大学シンポジウム参加申込」と明記し、①氏名（ふりがな）、②所属、③職名（研究者のみ）、④連絡先のFAX番号および電話番号、受付通知をメールにて希望される方はメールアドレス、⑤年齢、をご記入の上、事務局FAX番号〈075-753-7020〉宛にご送付ください。受付後、こちらから確認のFAXをお送りします。

○往復はがきでの申込み

- ①氏名（ふりがな）、②住所、③所属、④職名（研究者のみ）、⑤連絡先の電話番号、⑥年齢、をご記入のうえ、下記あてにご送付ください。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学基礎物理学研究所 総務掛



京都大学附置研・センター第8回シンポ

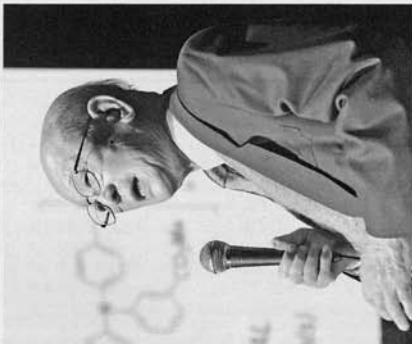
京都からの提言～21世紀の日本を考える

私は教育の専門家ではないが、研究者としての経験から「科学を学ぶことの重要性」を提言したい。

中でも大学の役割は、教育と研究の両方を担うことにある。大学の教育は、単に知識を伝えるだけでなく、学生が自ら考え、自ら学ぶ能力を身につけることにある。そして、研究は、未知の世界を探索することにある。

このシンポジウムは、科学の基礎研究のあり方について話し合うパネルディスカッションの講演者から（札幌市中央区）～山本高広氏撮影

科学を学ぶことの重要性



鈴木 章 北海道大名誉教授

付加価値こそ生きている道

「付加価値」という言葉は、経済学でよく使われる。商品やサービスに、単なるコスト以上の価値を加えることを指す。これは、企業が競争力を高めるための重要な要素である。

しかし、この概念は、教育や研究にも適用できる。教育は、単に知識を伝えるだけでなく、学生が自ら考え、自ら学ぶ能力を身につけることにある。そして、研究は、未知の世界を探索することにある。

このシンポジウムは、科学の基礎研究のあり方について話し合うパネルディスカッションの講演者から（札幌市中央区）～山本高広氏撮影

津田 一郎 北海道大数論学
研究センター長

パネルディスカッション

今後「科学がもたらす日本への影響」というテーマについて、パネルディスカッションが行われた。参加者は、科学の基礎研究のあり方について話し合った。

津田 一郎 北海道大数論学研究センター長は、科学の基礎研究の重要性について述べた。

数学は「科学の共通言語」

科学は、自然の法則を理解するための共通言語である。数学は、科学の共通言語として、科学の発展に貢献している。

津田 一郎 北海道大数論学研究センター長は、数学の重要性について述べた。



知的好奇心の成果還元を

科学の基礎研究は、社会に還元されるべきである。知的好奇心は、科学の発展の原動力である。

津田 一郎 北海道大数論学研究センター長は、知的好奇心の重要性について述べた。



コナニ 孝一 基礎物理学研究所長

高次機能維持に重要



影山龍一郎 ウイルス研究所教授

大人の脳で新たに生まれる神経細胞とその不思議な役割

人間の脳は、約100億個の神経細胞で構成されている。これらの神経細胞は、脳の機能を果たしている。

影山龍一郎 ウイルス研究所教授は、脳の神経細胞の役割について述べた。

科学の基礎研究は、社会に還元されるべきである。知的好奇心は、科学の発展の原動力である。

影山龍一郎 ウイルス研究所教授は、科学的基礎研究の重要性について述べた。